

PEN インターナショナル英国研修レポート

筑波技術大学 折橋 正紀

8月9日から17日の1週間、PENインターナショナルの研修でイギリスに行ってきた。長いフライトを経て、イギリスに着いての第一印象は「夏なのに寒い！」だった。日本とは全く違う気候だったからだ。だが、この1週間は、私にとってとても素晴らしい時間だった。何故なら、日本ではあまり出来ないような経験をたくさんすることが出来たからだ。今回の研修に参加するまで私は他国のろう者と関わった経験がなく、さまざまな面で不安だった。また、大学でASLを学んでいたのをどこまで生かせるか試してみたかった。

では、この研修で何を経験し、何を学んだのかをいくつかにまとめたい。

まず、伝えようという姿勢を学んだ。イギリスで研修が始まり、1日目から休憩中や食事中に他国の学生との交流が積極的に行われた。そこで感じたことが、他国の学生は日本の学生と比べて積極的であるということだった。そこは、私たちも見習うべきだと思い、私たちも積極的に関わろうとした。また、自己紹介のとき、私は自分の知ってる範囲でASLを使い、分からない部分は筆談やジェスチャーで一生懸命伝えようと努力した。それは、相手も同じでお互い伝えようという気持ちがあったので伝え合うことが出来た。自己紹介だけでなく、グループによるディベートでも同じような方法でみんな伝え合っていたので、これは国内でも同じだと感じた。同じ聴覚障害者同士、聴覚障害者と健聴者の間でのコミュニケーションで伝わらなかったら諦めることがしばしば見られるので、伝えようという姿勢が大事なのだということを周りに伝えていきたいと思った。



次に、文化の違いを学んだ。レクチャーの1つに文化に関する内容があり、とても面白かった。文化に関しては、高校などである程度学んでいたが、イギリスでは全く知らなかったことばかりで思わず「へえ～」とってしまうほどであった。また、同じ国でも地方によって微妙に文化に違いがあることも知った。これは、国単位だけでなく、健聴者とも

う者の間でも言えることである。ろう者には独自に発展してきた文化がある。そのように異なる文化に出会ったときにどうするか。今回の研修では、異なる文化を受け入れることの必要性を学んだ。

最後に、これは学んだこととは別だが、とても良い思い出を作ることができた。特に、レクチャーが終わった後のパブは色んな人と遊ぶことが出来た。酒を交わしながらダーツ、ビリヤード、雑談、簡単なゲームを楽しむことが出来た。私にとってパブは初体験だったので、なおさら楽しかった。以下の写真はその時の様子である。



イギリスでの1週間は、一生忘れられない思い出になった。今後も他国のメンバーと連絡を取り合い、数年後に同窓会みたいなもので再開できる日がくるのを楽しみにしている。

